

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事の準備、買い物、調理、盛り付け、後片付け、配膳、下膳等を各入居者様の出来る範囲で行っているが、調理自体に関しては意欲の面や身体的な面で困難になってきており、参加される方が徐々に減ってきている。</p>	<p>・調理自体にあまりこだわりのではなく、テーブル拭きなども含め多岐にわたる役割を選択肢として提供し、ひとりでも多くの方に食べる事以外の食も楽しんで頂ける取り組みを継続すると共に、食べる事自体を楽しんで頂く取り組み(外食・出前・リクエストメニュー等)も強化する。</p>	<p>・食べる事を楽しむといった事への取り組み(外食・出前・リクエストメニュー等)強化を掲げ、出来る工夫や手段(これらの取組をあえて不定期から定期<例：毎月1回、第〇週の〇曜日等>にする、毎月1回、出前<お弁当>を庭に出て花壇を鑑賞したり、外気に触れながら召し上がって頂く等)への意見や提案を職員からだけに留めず、ご本人をはじめ、家族様からも意見や要望等を幅広く拾い上げ、職員間で共有し実践へ向け取り組んでいく。</p>	3ヶ月～ 12か月
2	33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 実際に重度化、終末期を迎えられる際に医師、管理者、家族様(参加可能な状況であれば本人様含む)で、話し合いの場を設け、最終的には、医師の見解と、家族様(本人様)の意向を確認した上で、ホームでの看取り介護への移行となる。看取りケアを行っている際は、記録ノートを居室に置き、家族様自身にも思いや希望等を書き留めて貰い(家族様と職員との交換ノート)、家族様の思いも全職員間で情報を共有し、本人様(家族様)の意向を尊重した支援を目標に掲げ、チーム一丸で看取り介護に取り組んでいる。看取りを終えた後に振り返りカンファレンスを開催し、職員の不安や意見、学びを共有しているが、看取り介護を終えた後に入職した職員や、看取り介護経験のない職員へ向けた学びの共有といった点が課題である。</p>	<p>・後悔しない看取り介護、より充実した看取りケアの実践に向け、看取りケアを終え振り返りカンファレンスで挙げた、看取り介護期間中の家族様の思いや、看取り介護へ携わった職員の学び等を活かし、今後入職してくる職員が携わる看取り介護への学びとなるよう、その都度マニュアル改定する。</p>	<p>・次回看取りケアを終えた際から、振り返りカンファレンスにて共有した学びを今後を活かし、看取りケアの経験がない職員にも、看取りケアで得られた学びを共有することが出来るように、カンファレンス後には必ずマニュアルを改訂し、より充実した看取りケアの実践に取り組んでいく。</p>	12ヶ月
3	6	<p>○身体拘束をしないケアの実践(玄関の施錠) ホーム内の研修(勉強会)や外部研修への参加をとおし、身体拘束に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、身体に限定しない「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。 玄関の施錠が拘束に当たるといことも全職員が理解・認識しているが、実際に離設された利用者様もおられ家族会の希望と建物の構造上施錠を行っている。</p>	<p>・施錠に替わる安全を担保できる手段について、再度幅広く意見を求め、さらなる検討を重ねる。</p>	<p>・今回の外部評価受診の結果においてステップ項目に玄関の施錠について指摘されたことを、職員間は基より家族様、地域の方とも家族会や運営推進会議等で報告・共有し、施錠に替わる安全を担保できる手段について幅広く意見を求め、さらなる検討を重ねるなど段階を踏みながら取り組んでいく。</p>	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。